

丹波国における墨書土器の集成とその傾向

浅田 洋 輔

2021 8月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

丹波国における墨書土器の集成とその傾向

浅田 洋輔

1. はじめに

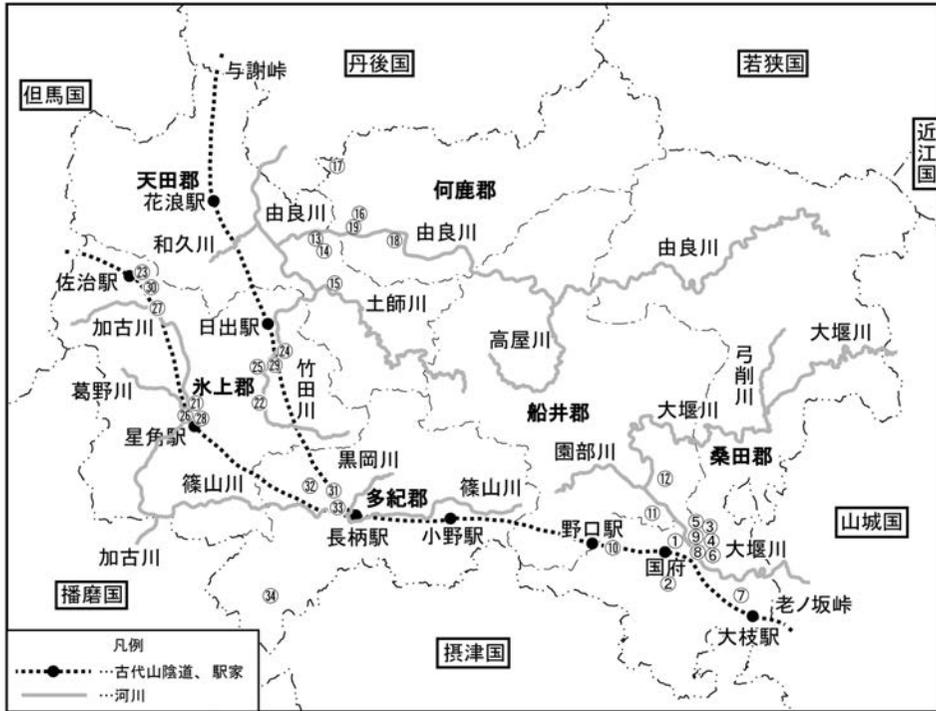
遺跡から出土する文字資料の中に墨書土器がある。文字資料には他にも木簡などがあるが、遺物の残存は埋没状況に左右されるため出土しにくい。それに対し、墨書土器は遺物の残存状態が埋没状況に影響されないため、遺棄されたままの状態でも出土しやすい遺物である。

墨書土器などの文字資料は都城近辺において出土例が多いが、畿内から離れた地域においても、官衙や寺院といった文字を必要とする人々がいる遺跡の周辺やその近辺などで出土事例は存在している。丹波国も例外ではなく、多くの墨書土器の出土事例が存在している。

各地での発掘調査の蓄積によりこれらの墨書土器についての研究も進んできている。都城における墨書土器を集成・検討したものに『長岡京墨書土器集成』がある。これは長岡京で出土した墨書土器を集成し、墨書されている土器の器種構成など長岡京における墨書土器の様相について考察がなされている^(注1)。全国における墨書土器や刻書土器をデータベース化したものとして明治大学古代学研究所の「全国墨書・刻書土器データベース(2010)」があり、インターネットで各地の墨書土器について検索できるようになっている。しかし、丹波地域についてはデータベースの整備がまだ進んでいない状態である。また、各地での出土事例に基づいて墨書土器に関する論文も多数出されているが、この地域について論じた論文は存在していない。丹波国は畿内五か国に接する山陰道の第一国という重要な地域であるにもかかわらず貴重な文字資料であるはずの墨書土器については各報告書で記述されている内容以上のことはわからない状態である。以上の状態を解消するために丹波国における墨書土器を集成し、出土遺跡の立地や出土遺構、器種構成などを概観することで丹波国における墨書土器研究の一助としたい。

2. 丹波国における墨書土器の出土遺跡

丹波国における墨書土器の出土事例を集成した結果、34遺跡において605点の墨書土器の出土を確認した。郡ごとに細分すると、桑田郡が10遺跡186点、船井郡が2遺跡24点、天



- ①千代川遺跡 ②佐伯遺跡 ③時塚遺跡 ④三日市遺跡 ⑤池尻遺跡 ⑥丹波国分寺 ⑦篠遺跡
 ⑧河原尻遺跡 ⑨馬路遺跡 ⑩宮川遺跡 ⑪八木嶋遺跡 ⑫室橋遺跡 ⑬土遺跡 ⑭石原遺跡
 ⑮多保市城跡 ⑯小西町田遺跡 ⑰高倉遺跡 ⑱綾中遺跡 ⑲石原遺跡 ⑳豊里中部地区所在遺跡
 ㉑市辺遺跡 ㉒七日市遺跡 ㉓山垣遺跡 ㉔三ツ塚廃寺 ㉕長者ヶ野遺跡 ㉖本郷・寺ノ東遺跡
 ㉗沢野遺跡 ㉘横田遺跡 ㉙梶原遺跡 ㉚平野遺跡 ㉛下小西ノ坪遺跡 ㉜内場山城跡
 ㉝西岡屋遺跡 ㉞下小野原散布地

第1図 丹波国墨書土器出土遺跡位置図

田郡が3遺跡14点、何鹿郡が5遺跡11点、氷上郡が10遺跡357点、多紀郡が4遺跡13点であった。出土遺跡の立地を見ると、丹波国の中でも山陰道沿いの氷上郡や多紀郡、亀岡盆地がある桑田郡や船井郡の南部地域に多いことがわかる(第1図)。中でも氷上郡は突出して墨書土器の出土遺跡が多く、丹波国内における墨書土器の出土数の半数以上を占める。氷上郡には銅印や墨書土器・木簡などがまとまって出土した官衙遺跡の市辺遺跡など、多量の墨書土器が出土した遺跡が多い。また、古代山陰道と多紀郡の長柄駅付近で分岐した丹後支路が存在している。加えて、山陰道と河川が交流するような場所が多くみられるので、丹波国の中でも交通の便が良い立地であったのではないかと考えられる。次に多い点数が出土している桑田郡は、畿内と丹波国の出入り口に位置する場所であることから古来よりこの地域の文化・政治の中心地であった。国府推定地や国分寺など当時の丹波国の公的施

付表1 丹波国墨書土器出土点数一覧表

郡名	遺跡名	種類						遺跡別 出土点数	郡別 出土点数
		土師器	須恵器	緑釉 陶器	灰釉 陶器	施釉 陶器	無釉 陶器		
桑田郡	千代川遺跡	2	87	2	7		1	68	186
	佐伯遺跡	1	66					98	
	三門市遺跡		6					4	
	時塚遺跡		4					6	
	池尻遺跡		2					2	
	丹波国分寺		2					2	
	篠遺跡		2					2	
	河原尻遺跡		2					2	
	馬路遺跡		1					1	
宮川遺跡		1					1		
船井郡	八木嶋遺跡		23					23	24
	室橋遺跡		1					1	
天田郡	土遺跡		12					12	14
	石原遺跡	1						1	
何鹿郡	多保市城跡		1					1	
	小西町田遺跡		5					5	11
	高倉遺跡		3					3	
	綾中遺跡		1					1	
	石原遺跡		1					1	
	豊里中部地区所在遺跡					1		1	
氷上郡	市辺遺跡	32	210					242	357
	七日市遺跡	1	59					60	
	山垣遺跡	4	40					44	
	三ツ塚廃寺		2					2	
	長者ヶ野遺跡		2					2	
	本郷・寺ノ東遺跡		2					2	
	沢野遺跡		2					2	
	横田遺跡		1					1	
	梶原遺跡		1					1	
平野遺跡		1					1		
多紀郡	西浜谷下小西ノ坪遺跡		9					9	13
	内場山城跡		2					2	
	西岡屋遺跡		1					1	
	下小野原散布地	1						1	
	計	42	552	2	7	1	1	605	605

設の多くは桑田郡に設置されている。このことから国府推定地周辺を中心に郡内にまんべんなく墨書土器が分布している。天田郡や何鹿郡の北部地域は出土遺跡数や点数が少ないが、土師川や由良川などの河川に近い場所に分布している。これは南部地域が古代山陰道を利用した物流や人の往来が盛んであったのに対し、大規模な河川にアクセスしやすい立地の遺跡に官人など文字を利用していた人物がいたためではないかと考えられる。

付表2 器種別墨書土器出土点数表

種類	器種	記載部位	出土点数	計
土師器	杯身	底部外面	33	42
		体部外面	5	
	皿	底部外面	3	
		不明	1	
須恵器	杯身	底部外面	337	371
		底部内面	10	
		底部外面、底部内面	5	
		底部外面、体部外面	1	
		体部外面	18	
	杯蓋	外面	74	118
		内面	40	
		外面、内面	4	
	椀	底部外面	9	14
		体部外面	5	
	椀蓋	外面	1	1
	皿	底部外面	14	16
		体部外面	2	
	鉢	底部外面	1	1
	壺	底部外面	2	2
	不明	不明	29	29
緑釉陶器	椀	底部外面	2	2
灰釉陶器	椀	底部外面	6	7
		皿	底部外面	
施釉陶器	不明	底部外面	1	1
無釉陶器	椀	体部外面	1	1
		計		605

3. 丹波国における墨書土器の傾向

丹波国における墨書土器の傾向について概観を述べたい。出土した墨書土器の構成は須恵器が552点(91%)であり、その他の土師器や緑釉陶器などは須恵器に対して極少量であった(付表1)。長岡京における墨書土器の構成は須恵器と土師器が半々に近い割合であるのと比べて大きな違いがみられる。この傾向が丹波国だけのものであるのかどうかはほかの地域と比較検討していく必要があると思われる。

出土した墨書土器を器種別にみると、須恵器杯身が371点(61%)、須恵器杯蓋が118点(19%)となっており、他の器種は多いものでも5%未満であった。これらの記載位置は底部外面や外面、体部外面など土器の

外側に書かれているものが8割以上を占めていた(付表2)。墨書土器が出土した遺構をみると、溝が211点(35%)、河道が210点(35%)、包含層が101点(17%)であった(付表3)。市辺遺跡で河道から「益利女」、「益女」、「益利」「女」など特定の個人を示すと考えられる墨書土器が76点出土している点は注目すべき事例である。「益女」は丹波国において最多の29点が確認されている。市辺遺跡において「益利女」の派生と考えられる墨書文字が多数確認できることからこの人物に関する何らかの祭祀が行われていた可能性が考えられる。このような人名を示すと考えられるような墨書土器は溝や河道などで出土している事例が多いことから溝や河道など水の流れるような場所での祭祀などを想定することができる。

墨書されていた文字をみみると、多くの墨書土器が出土している遺跡では同じ文字やそれに似たもの、欠損があるため確定できないが同じ文字ではないかと推定されるものなどが多数見られた。氷上郡では七日市遺跡と山垣遺跡において「春部」「春マ」「春部郷」など「春部」の地名がみられるものが29点確認できた。他にも地名が記されていると推測

付表3 遺構別墨書土器
出土点数

遺 構	出土点数
竪穴建物	3
掘立柱建物	8
柱 穴	3
井 戸	7
土 壙	5
土器溜り	3
落ち込み	42
溝	211
遺 構 内	1
河 道	210
流 路	1
自然地形	1
包含層	101
攪 乱	4
表 採	1
不 明	4
計	605

される墨書土器がいくつかみられた。

また、役職とみられる文字は千代川遺跡の「大長」や山垣遺跡の「春里長」など数は多くないがいくつか確認できた。このほか、丹波国の広域にわたって複数の遺跡で見られた文字としては「福」や「西」を使用した例があげられる。「福」は「長福」や「福敷」、「正福」などのような吉祥句として使用されている事例が26点が確認された。市辺遺跡の「長福」以外は桑田郡に集中している点は注目する点である。「西」は1文字単独だけでなく、「□西」や「西□」、「西家」などほかの文字と組み合わせられている事例もみられる。「西」と記された墨書土器は、6遺跡で11点確認された。「西」は方位が連想されるが、丹波国においては「西」を除くと七日市遺跡で出土した「南」と記された1点以外に方位を使用した墨書土器はみられなかった。明治大学のデータベースでは他の方位の文字も見られることから丹波国において「西」という字には何らかの意味合いがあったのではないかと考えられる。

他にも5遺跡で17点確認された「大」、氷上郡の遺跡において9点確認された「得」など複数の遺跡で見られる文字もあるので今後それぞれの遺跡における墨書文字の検討などが必要である。

4. まとめ

集成作業の漏れや墨痕がみられるが細片であるため未報告の資料、報告書の作成時に墨書に気づいていない事例などがある可能性が考えられるので実際に存在していた墨書土器は今回集成作業により集計した605点よりも多くのものがあつたのではないかと考えられる。しかし、私が墨書土器の集成作業を始める前に想定していたより多くの墨書土器が出土しており、氷上郡でまとまった量の墨書土器の出土例があることが判明した。出土している遺跡は古代山陰道沿いや大きな河川沿いなど交通の便が優れている地点で多く見られ、このような場所に文字を使用していた人々がいたことが分かった。出土した墨書土器をみると、土器の種類や器種に偏りがみられる。これが丹波国だけにみられる事であるかどうかなど、今後検討が必要である。

今回遺跡ごとに個別の様相や墨書されている文字についての検討が行えなかったので別稿においてまとめていきたい。

(あさだ・ようすけ=宇治市歴史まちづくり推進課)

付表4 丹波国出土の墨書土器一覽1

遺跡名	釈文	器種及び員数	遺跡名	釈文	器種及び員数	
千代川遺跡	「福」	須恵器(杯蓋1、椀1、不明1)	佐伯遺跡	判読不明	須恵器(杯身27、杯蓋6、不明5)、無釉陶器(椀1)	
	「福」カ	須恵器(杯身4)	三 日 市 遺 跡	「小田」	須恵器(杯身1)	
	「福」□	須恵器(杯身1)、灰釉陶器(皿1)		「富福」	須恵器(杯身1)	
	「□福」	緑釉陶器(椀2)		「天平」カ	須恵器(杯身1)	
	「福敷」	須恵器(杯身1)		「本」	須恵器(壺?1)	
	「□敷」	須恵器(杯身1)		「三」	須恵器(杯蓋1)	
	「長福」	須恵器(杯蓋1)		判読不明	須恵器(杯身1)	
	「福言」カ	須恵器(椀1)		「高」	須恵器(椀1)	
	「平福」	須恵器(杯身2)		「神」	須恵器(杯身1、杯蓋1)	
	「平」	須恵器(杯身3、杯蓋1)		人面	須恵器(不明1)	
	「平貴」	須恵器(杯身1)		「官」	須恵器(不明1)	
	「□平□」	須恵器(杯身1)	池尻遺跡	「大□」	須恵器(杯身1)	
	「大」	須恵器(杯身1)	国分寺	判読不明	須恵器(杯身1、杯蓋1)	
	「大長」	須恵器(杯身2、皿1)	篠遺跡	「可福」カ	須恵器(椀1)	
	「□長」	須恵器(杯身1、杯蓋1)	河 原 尻 遺 跡	「西」	須恵器(椀1)	
	「大家」	須恵器(杯身1)		「藏」	須恵器(杯身1)	
	「大口」	須恵器(杯身3)		判読不明	須恵器(杯蓋1)	
	「小家」	須恵器(杯身2)		馬路遺跡	「田中」	須恵器(椀1)
	「大宅」	須恵器(杯身1)		宮川遺跡	「廣西」	須恵器(杯身1)
	「廣」	須恵器(杯身3)		八 木 嶋 遺 跡	「中端」	須恵器(不明1)
	「廣□」	須恵器(杯身1)			「西」	須恵器(杯身2)
	「□鳥」カ「□嶋」	須恵器(椀1)			「西」カ	須恵器(杯身1)
	「寺」	須恵器(杯蓋1)			「今西」	須恵器(杯身1)
	「寺」カ	須恵器(杯身1)			「西」、「西□」	須恵器(不明1)
	「」	須恵器(杯身1)	「西福」、「西」		須恵器(杯身2)	
	「吏」	須恵器(壺1)	「福□」カ、「西」		須恵器(杯身1)	
	「高」カ	須恵器(椀1)	「□西」、「西□」		須恵器(杯蓋1)	
	「田邊」	須恵器(杯身1)	「仁」		須恵器(杯身1)	
	「□夫」	須恵器(杯身1)	「今」		須恵器(杯身1)	
	「□□□□富□」	須恵器(杯身1)	「住」カ	須恵器(不明1)		
	「井」	須恵器(杯蓋1)	判読不明	須恵器(杯身8、杯蓋1、不明1)		
	「東万呂」	須恵器(椀1)	室橋遺跡	「西」	須恵器(杯身1)	
	「吉」	須恵器(杯蓋1)	土 遺 跡	「田次」	須恵器(杯身1)	
	「萬」	須恵器(杯身1)		「二」カ	須恵器(杯身1)	
	「司」	須恵器(杯身1)		判読不明	須恵器(杯身3、不明7)	
	「西」	須恵器(杯身1)		石原遺跡	記号	土師器(不明1)
	「後」	須恵器(杯身1)		多保市 城跡	判読不明	須恵器(杯身1)
	「□人」	須恵器(杯身1)		小西町田 遺跡	「乙」カ	須恵器(杯蓋1)
	「厨」カ	須恵器(杯身1)		判読不明	須恵器(杯身2、杯蓋2)	
	「十」カ	須恵器(杯身1)		「家」	須恵器(不明1)	
「古」カ	須恵器(杯身1)	高倉遺跡		「家元」カ	須恵器(杯身1)	
判読不明	土師器(杯身2)、須恵器(杯身26、杯蓋2、不明2)、灰釉陶器(椀6)	「村」カ		須恵器(杯蓋1)		
佐伯遺跡	「福」	須恵器(杯身1、杯蓋1)	綾中遺跡	「三」カ	須恵器(杯身1)	
	「福」カ	須恵器(杯身1)	石原遺跡	判読不明	須恵器(杯身1)	
	「正福」	須恵器(杯身1)	豊里中部	判読不明	施釉陶器(不明1)	
	「福家」	須恵器(杯身1)	市 辺 遺 跡	「村」カ	須恵器(杯身1)	
	「田屋」	須恵器(杯身2)		「村田」	須恵器(杯身4、杯蓋3)	
	「田天」カ	須恵器(杯蓋1)		「村田」カ	須恵器(杯身3、杯蓋4、皿1)	
	「田□」	須恵器(杯身1)		「院」カ	須恵器(杯蓋1)	
	「用」	須恵器(杯身2)		「院秦」	須恵器(杯身6、杯蓋2、皿1)	
	「上」	須恵器(杯身1)		「院秦」カ	土師器(杯身1)、須恵器(杯身2)	
	「丈」	須恵器(杯蓋1)		「院□」	須恵器(杯身1)	
	「井」カ	須恵器(不明1)		「大」	須恵器(杯身4、杯蓋9)	
	「屋□」	須恵器(皿1)		「大」カ	須恵器(杯身3、椀1)	
	「キ」カ	須恵器(杯身1)		「大」カ、「□」	須恵器(杯身1)	
	「×」カ	須恵器(杯身1)		「大人」	土師器(杯身1)、須恵器(杯身1)	
	「上□」	須恵器(不明1)		「大○」	須恵器(杯身6、杯蓋2、皿2)	
	「仿」	須恵器(杯身1)		「大○」、「大○」	須恵器(杯蓋1)	
	「西」	須恵器(杯身1)		「大○」カ	須恵器(杯身2、杯蓋2)	
	「西家」	須恵器(杯蓋1)		「○」	須恵器(杯身8、杯蓋5)	
	「□家」	須恵器(杯蓋1)		「○」、「○」	須恵器(杯身1)	
	「小殿」	土師器(皿1)		「○」カ	須恵器(杯身1)	
	「府」カ「庁」	須恵器(不明1)		「大里○」	須恵器(皿1)	
	「知」	須恵器(杯蓋1)		「金真利」	須恵器(杯身1)	
	「幻」カ	須恵器(不明1)		「井」カ	須恵器(杯身2)	
	絵画	須恵器(杯身2、不明1)		「川」	須恵器(杯身2)	

付表5 丹波国出土の墨書土器一覧2

遺跡名	釈文	器種及び員数	遺跡名	釈文	器種及び員数
市辺遺跡	「川」カ	土師器(杯身1)	七日市遺跡	「桑田」	須恵器(杯身1)
	「川」カ「三」	須恵器(皿1)		「衣」カ	須恵器(杯身1)
	「長福」	須恵器(杯蓋1)		「國手」	須恵器(杯身1)
	「萩三」カ	須恵器(杯蓋1)		「太銭」	須恵器(杯身2)
	「威」	須恵器(杯蓋1)		「太口」	須恵器(杯身1)
	「注」	土師器(杯身1)、須恵器(杯身9、杯蓋2)		「銭」	須恵器(杯身2)
	「注」カ	土師器(杯身1)		「方」	須恵器(皿1)
	「西」	須恵器(杯身3、杯蓋1)		「南」	須恵器(椀1)
	「天」	須恵器(杯身5、杯蓋1)		「隆珠」	須恵器(杯身3、杯蓋1)
	「得」	土師器(杯身1)、須恵器(杯身2)		「隆珠」、「隆珠」	須恵器(杯身1)
	「得」カ	土師器(杯身1)、須恵器(杯身1)		「三中」	須恵器(杯蓋1)
	「田中」	須恵器(杯身1)		「三中」カ	須恵器(杯蓋か?1)
	「林」	須恵器(杯身1)		「一」	須恵器(杯身1)
	「ナ」	須恵器(杯身1)		「二」	須恵器(杯身1)
	「I I I I」	須恵器(杯身2)		「三」	須恵器(皿2)
	「家」カ	須恵器(杯身1)		「七」	須恵器(杯蓋1)
	「主」	須恵器(杯身1)		「十」	須恵器(杯身4、杯蓋1)
	「富人」	須恵器(杯身1)		「千」	須恵器(杯蓋1)
	「口夫」	須恵器(杯身1)		「春部」	須恵器(杯蓋1)
	「益」	土師器(杯身2)、須恵器(杯身4、杯蓋2)		「春部」カ	須恵器(杯身1)
	「益」カ	須恵器(杯身2)		「春マ」	須恵器(杯身9、杯蓋4)
	「利」	須恵器(杯身1)		「春口」	土師器(杯身1)
	「女」	須恵器(杯身1)		「春」	須恵器(杯身1、杯蓋1)
	「女」カ	須恵器(杯蓋1)		「春部口」	須恵器(杯蓋1)
	「益利女」	土師器(杯身4)、須恵器(杯身2)		「春マ」、「春里長」	須恵器(杯蓋1)
	「益利女」カ	土師器(杯身4)		「春マ」4つ習書?	須恵器(杯蓋1)
	「益女」	土師器(杯身1)、須恵器(杯身28)		「仮」	須恵器(杯身2)
	「益女」カ	土師器(杯身1)、須恵器(杯身1)		「珠坏」カ	須恵器(杯蓋1)
	「益利」	土師器(杯身1)、須恵器(杯身12)		「杯」	須恵器(杯蓋1)
	「益利」カ	土師器(杯身1)		「井」	須恵器(杯身1、杯蓋1)
	「利女」	土師器(杯身1)		「掛」	須恵器(杯身2)
	「益口」	須恵器(鉢1)		「上影栄」	須恵器(杯身2)
「益口」カ	土師器(杯身1)	「富貴」	須恵器(杯身1)		
「口女」	須恵器(杯身1)	「得」	土師器(皿1)、須恵器(杯蓋1)		
「口女」、「女」	須恵器(杯身1)	「家口」カ	須恵器(杯蓋1)		
「益口変」	土師器(杯身1)	「大」	須恵器(杯蓋1)		
「伊伏女」	須恵器(杯身1)	「玉」	須恵器(杯蓋1)		
「一」カ	須恵器(杯蓋1)	「之」カ	須恵器(杯身1)		
「六」	土師器(杯身1)	判読不明	須恵器(杯身4、杯蓋2)		
「八」カ	須恵器(杯蓋1)	「高」	須恵器(杯身1)		
「十」	土師器(杯身3)、須恵器(杯身1、稜椀蓋1)	「高田南」カ	須恵器(杯蓋1)		
判読不明	土師器(杯身3)、須恵器(杯身19、杯蓋6、皿3)	三ッ塚 廃寺			
「春部」	土師器(杯身1)、須恵器(杯蓋3)	長者ヶ野 遺跡	「井」	須恵器(椀1)	
「春マ」	須恵器(杯身2)		「×」、「×」	須恵器(椀1)	
「春部郷」	須恵器(杯身1)	本郷・寺ノ 東遺跡	「高田」	須恵器(杯身2)	
「春マ郷」	須恵器(杯身1)	沢野遺跡	「大」	須恵器(椀1)	
「春部古」	須恵器(杯身1)	横田遺跡	「丹」カ	須恵器(杯蓋1)	
「得」	須恵器(杯身2、杯蓋2)	梶原遺跡	判読不明	須恵器(杯身1)	
「得」カ	須恵器(杯身1)	平野遺跡	判読不明	須恵器(杯身1)	
「春マ得」	須恵器(杯蓋1)		判読不明	須恵器(不明1)	
「鯨」	須恵器(杯身2、杯蓋1、皿1)	下 小 西 ノ 坪 遺 跡	「永西」カ	須恵器(杯身1)	
「春鯨」	須恵器(杯身1)		「永」カ	須恵器(杯身1)	
「口鯨」	須恵器(杯身1)		「口」、「永西」カ	須恵器(杯身1)	
「真口」	須恵器(杯身1、杯蓋1)		「山井」	須恵器(杯蓋1)	
「門殿」	須恵器(杯身1)		「鳥呼」カ	須恵器(杯蓋1)	
「門」	須恵器(杯身1)	内場 山城跡	判読不明	須恵器(杯身2、杯蓋2)	
「家」	須恵器(杯蓋1)		「庄本口」	須恵器(杯身1)	
「大家口」	須恵器(杯身1)	西岡屋 遺跡	「得」カ	須恵器(皿1)	
「伊口家」カ	須恵器(杯身1)		「吉主」カ	須恵器(不明1)	
「大井」	須恵器(杯身1、杯蓋1)	下小野原 散布地	梵字	土師器(皿1)	
「大」	須恵器(杯身1)				
「黒巫」カ	須恵器(杯身1)				

注1 中島信親2019「長岡京墨書土器集成」『向日市内臓文化財調査報告書』第110集(公財)向日市埋蔵文化財センター

参考文献(地域順、付表4・5に連動)

村尾政人・引原茂治1982「国道9号線バイパス関係遺跡昭和56年度発掘調査概要(1)千代川遺跡」『京都府遺跡調査概報』第1冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

水谷壽克・岡崎研一1984「千代川遺跡第3次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第12冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

水谷壽克・引原茂治・田代弘・森下衛1985「千代川遺跡第6・7次発掘調査概要」『京都府埋蔵文化財調査概報』第14冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

竹原一彦「千代川遺跡第16次発掘調査概要」1991『京都府遺跡調査概報』第44冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

森下衛・鶴島三壽1992「千代川遺跡」『京都府遺跡調査報告書』第16集(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

中澤勝1999「市内遺跡発掘調査報告書I. 千代川遺跡第25次発掘調査報告書」『亀岡市文化財調査報告書』第50集 亀岡市教育委員会

中澤勝2018「国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡発掘調査-千代川遺跡第30次」『市内遺跡発掘調査報告書』第95集 亀岡市教育委員会

村田和弘・武本典子2019「1. 平成27~29年度国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」関係遺跡 佐伯遺跡第7~9次」『京都府遺跡調査報告書』第178冊(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

岡崎研一2008「国営緊急農地再編整備事業「亀岡地区」関係遺跡平成16・18年度発掘調査報告書(1)時塚遺跡第6・8・10次」『京都府遺跡調査報告集』第127冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

石崎善久2009「国営緊急農地再編整備事業「亀岡地区」関係遺跡平成18・19年度発掘調査報告 時塚遺跡第15・17次」『京都府遺跡調査報告集』第135冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

中澤勝2008「市内遺跡発掘調査報告書(3)立会調査-三日市遺跡・時塚遺跡」『亀岡市文化財調査報告書』第76集 亀岡市教育委員会

藤井整・松尾史子2005「国営農地再編整備事業「亀岡地区」関係遺跡II 平成15年度の調査[1] 三日市遺跡第2次」『京都府埋蔵文化財調査報告書(平成16年度)』京都府教育委員会

石崎善久2005「国営緊急農地再編整備事業「亀岡地区」関係遺跡(3)三日市遺跡第3次」『京都府遺跡調査概報』第114冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

森島康雄2006「国営緊急農地再編整備事業「亀岡地区」関係遺跡(1)三日市遺跡第4次」『京都府遺跡調査概報』第120冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

- 柴曉彦 1994「池尻遺跡第2次調査」『京都府遺跡調査概報』第58冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 中澤勝 1999「市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ．坊主塚古墳／池尻廃寺発掘調査報告書－国営農地再編整備事業関連遺跡・馬路地区－」『亀岡市文化財調査報告書』第50集 亀岡市教育委員会
- 高橋あかね 1999「史跡丹波国分寺跡第10次発掘調査報告書－記念物保存修理事業－」『亀岡市文化財調査報告書』第49集 亀岡市教育委員会
- 樋口隆久 1991「篠遺跡第2次発掘調査」『亀岡市文化財調査報告書』第25集 亀岡市教育委員会
- 森島康雄 2005「国営緊急農地再編整備事業「亀岡地区」関係遺跡（1）河原尻遺跡」『京都府遺跡調査概報』第114冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 村田和弘 2005「国営緊急農地再編整備事業「亀岡地区」関係遺跡（2）馬路遺跡第3次」『京都府遺跡調査概報』第114冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 野々口陽子 1996「宮川遺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第72冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 柴曉彦 1994「国道478号バイパス関係遺跡平成2・4年度発掘調査概要（1）八木島遺跡」『京都府遺跡調査概報』第56冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 辻本和美 2010「室橋遺跡第15・17次」『京都府遺跡調査報告集』第139冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 八瀬正雄 2007「I 土遺跡（第3・4次）」『福知山市文化財調査報告書』第54集 福知山市教育委員会
- 八瀬正雄 2008「I. 土遺跡」『福知山市文化財調査報告書』第56集 福知山市教育委員会
- 崎山正人 1989「石原遺跡発掘調査」『福知山市文化財調査報告書』第15集 福知山市教育委員会
- 伊野近富 1985「近畿自動車道舞鶴線関係遺跡昭和59年度発掘調査概要（4）多保市城跡」『京都府遺跡調査概報』第13冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 三好博喜 1993「三宅遺跡・小西町田遺跡」『京都府遺跡調査報告集』第18冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 近澤豊明 1994「高倉遺跡発掘調査概報」『綾部市文化財調査報告』第20集 綾部市教育委員会
- 中村孝行 1982「3 綾中遺跡発掘調査概報」『綾部市文化財調査報告』第9集 綾部市教育委員会
- 近澤豊明 1991「石原遺跡発掘調査概報」『綾部市文化財調査報告』第18集 綾部市教育委員会
- 三好博喜 1997「豊里中部地区所在遺跡（平成8年度）」『綾部市文化財調査報告』第25集 綾部市教育委員会
- 穂定淳介・平田博幸 2005「兵庫県丹波市市辺遺跡」『兵庫県文化財調査報告書』第304冊 兵庫県教育委員会
- 井守徳男 1991『七日市遺跡（I）－第3分冊－（飛鳥・奈良・平安時代遺跡の調査）－近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書（XⅡ－3）』兵庫県文化財調査報告書第72冊－3 兵庫県教育委員会
- 加古千恵子・平田博幸・岸本一宏『山垣遺跡－「里長」関連遺構の調査－発掘調査報告書 近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書（XⅢ）』兵庫県文化財調査報告書第75冊 兵庫

県教育委員会

- 高井悌三郎・和田晴吾 1971「昭和50年度発掘調査概報」『丹波三ツ塚遺跡Ⅲ』兵庫県市島町
- 村山美生 1997「氷上郡埋蔵文化財調査概要報告書Ⅰ 長者ヶ野遺跡」『氷上郡埋蔵文化財発掘調査報告書』第3集 氷上郡教育委員会
- 徳原多喜雄 1999「氷上郡埋蔵文化財調査概要報告書Ⅱ 3. 本郷・寺ノ東遺跡」『氷上郡埋蔵文化財発掘調査報告書』第4集 氷上郡教育委員会
- 鐵英記ほか 2007「丹波市沢野遺跡－一般国道483号春日和田山道路事業Ⅰに伴う発掘調査報告書－」『兵庫県文化財調査報告書』第317冊 兵庫県教育委員会
- 久保弘幸・鐵英記 2006「丹波市所在横田遺跡・横田北古墳群発掘調査報告書」『兵庫県文化財調査報告書』第303冊 兵庫県教育委員会
- 平田美幸 2005『兵庫県丹波市所在梶原遺跡－SRIスポーツ株式会社総合開発センター市島工場（旧住友ゴム工業株式会社スポーツ総合開発センター市島工場）造成に伴う発掘調査報告書』SRIスポーツ株式会社
- 西口圭介 2011『丹波市平野遺跡－一般国道483号北近畿豊岡自動車道春日和田山道路事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅸ－』兵庫県文化財調査報告書第393冊 兵庫県教育委員会
- 山本明彦 1989「西浜谷下小西ノ坪遺跡－宅地造成工事に伴う発掘調査概要報告－」『篠山町文化財資料集』第9集 篠山町教育委員会
- 岡崎正雄 1993『多紀郡西紀町 内場山城跡 近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書（X X I）』兵庫県文化財調査報告書第126冊 兵庫県教育委員会
- 長濱誠司 2016『篠山市 西岡屋遺跡・ヤケヤノ坪遺跡・柴崎遺跡－長安寺西岡屋線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』『兵庫県文化財調査報告書』第483冊 兵庫県教育委員会
- 河野克人 1994「今田町団体営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書16. 下小野原散布地（第2次）」『今田町文化財調査報告』第2集 今田町教育委員会